

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0865

住 所 川崎市川崎区千鳥町13番2号

氏 名 サンケミカル株式会社

代表取締役 社長 前田 浩平 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンケミカル株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町13番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	ウレタン樹脂, 洗剤, 化粧品等の原料製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	3,267	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 5,691	(実) 5,292	(実) 5,073	(実) 5,577	(実) 5,520
	(調) 5,691	(調) 5,292	(調) 5,073	(調) 5,577	(調) 5,520
削減率		(実) 7.0%	(実) 10.9%	(実) 2.0%	(実) 3.0%
		(調) 7.0%	(調) 10.9%	(調) 2.0%	(調) 3.0%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	生産数量				原単位等の単位	t-CO2/ト
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)		
排出量原単位等の値	0.07234	0.07440	0.07622	0.07210	0.07017	
活動量の値	78670	71124	66556	77347	-	
排出量原単位等の削減率		-2.8%	-5.4%	0.3%	3.0%	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	高付加価値製品へ生産品目を移行することで生産数量の低下 (2018年度: 78,670ト、2019年度: 71,124ト) し、生産数量に関わらず使用している蒸気、電気の影響で排出量原単位は-2.8%まで悪化したが、排出量は基準年度の7%削減まで達した。	
第2年度	高付加価値製品へ生産品目を移行することで生産数量の低下 (2018年度: 78,670ト、2019年度: 71,124ト、2020年度: 66,556ト) し、生産数量に関わらず使用している蒸気、電気の影響で排出量原単位は-5.4%まで悪化したが、排出量は基準年度の10.9%削減まで達した。	
第3年度	高付加価値製品へ生産品目を移行することで基準年度と比べて生産数量が低下し、生産数量に関わらず使用している蒸気、電気の影響で排出量原単位は0.3%までの良化であったが、排出量は基準年度の2.0%削減まで達した。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		基準年度の2.0%まで削減したが目標の3.0%削減には未達であった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		LED照明への更新や真空ホッパの高効率機への更新等をさらに進めて、目標を達成する。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>エネルギー負荷の低減、高効率機器の導入、排蒸気の有効活用等の省エネルギー活動を通じて温室効果ガスの排出量削減を行なう。 (1)EMS委員会 EMS委員会を通じて温暖化ガス排出削減に取り組んでおり、各部署毎の活動・進捗状況をフォローし推進します。 (2)設備の保安全管理 保温の破損等の設備保全を確実に行き、無駄なエネルギー消費を抑制する。 (3)エネルギー管理 工場全体や主要設備単位でのエネルギー使用量をチェックし、無駄なエネルギー消費が発生したら直ぐ対応する。 (4)老朽化機器更新時の高効率機器採用 ①真空ポンプ ②冷凍機 ③照明等 購入時に高効率機器を採用 (5)保温の強化 保温を強化し放熱をなくす。</p>
<p>第1年度</p>	<p>(1)EMS委員会:継続的な活動を実施中 (2)設備の保全:定修を通じて継続実施 (3)エネルギー管理:毎月使用量をチェック等の活動を継続実施 運転条件の見直し:生産条件の見直し,冷却塔・冷凍機の管理温度アップ 継続実施 廃熱の利用:反応熱を利用を継続実施 (4)老朽化機器更新時の高効率機器採用:2019年度は真空ポンプ(1台)の更新 省エネルギー技術の採用:水銀灯のLED化を実施 (5)保温の強化:室内の熱中対策の一環として実施</p>
<p>第2年度</p>	<p>(1)EMS委員会:継続的な活動を実施中 (2)設備の保全:定修を通じて継続実施 (3)エネルギー管理:毎月使用量をチェック等の活動を継続実施 運転条件の見直し:生産条件の見直し,冷却塔・冷凍機の管理温度アップ 継続実施 廃熱の利用:反応熱を利用を継続実施 (4)老朽化機器更新時の高効率機器採用:2020年度は真空ポンプ(1台)の更新 省エネルギー技術の採用:水銀灯のLED化を実施 (5)保温の強化:室内の熱中対策の一環として実施</p>
<p>第3年度</p>	<p>(1)EMS委員会:継続的な活動を実施中 (2)設備の保全:定修を通じて継続実施 (3)エネルギー管理:毎月使用量をチェック等の活動を継続実施 運転条件の見直し:生産条件の見直し,冷却塔・冷凍機の管理温度アップ 継続実施 廃熱の利用:反応熱を利用を継続実施 (4)老朽化機器更新時の高効率機器採用:2021年度は電灯用変圧器の更新、真空ポンプ(1台)の更新、省エネルギー技術の採用:蛍光灯のLED化を実施 (5)保温の強化:室内の熱中対策の一環として実施</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>効果を得ているので、取組みを継続して実施する。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
無し		

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	無し
第3年度	無し

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<p>次の事を通じて地球温暖化対策の推進を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 用水使用量の削減 (2) 廃棄物削減 (3) 環境教育 (4) 法令順守
第1年度	<p>削減アイテムを実施しているが効果は出ておらず更にアイテムを増やし削減に努力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 用水使用量の削減：用水使用量は基準年に対し7%減少、生産量は10%減少し、用水原単位は悪化した。使用量削減アイテムを追加し、原単位を良好します。 (2) 廃棄物の削減：廃棄物は基準年に対し11%減少し、生産量は10%減少で、昨年の原単位より良好した。 (3) 環境教育：製造課員を中心に継続実施 (4) 法令順守：継続実施中
第2年度	<p>削減アイテムを実施しているが効果は出ておらず更にアイテムを増やし削減に努力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 用水使用量の削減：用水使用量は基準年に対し15%減少、生産量は15%減少し、用水原単位は変化無し。使用量削減アイテムを追加し、原単位を良好します。 (2) 廃棄物の削減：廃棄物は基準年に対し10%減少し、生産量は15%減少で、昨年の原単位より悪化した。用量削減アイテムを追加し、原単位を良好します。 (3) 環境教育：製造課員を中心に継続実施 (4) 法令順守：継続実施中
第3年度	<p>削減アイテムを実施しているが効果は出ておらず更にアイテムを増やし削減に努力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 用水使用量の削減：用水使用量は基準年に対し14%増加、生産量は2%減少し、用水原単位は悪化。使用量削減アイテムを追加し、原単位を良好します。 (2) 廃棄物の削減：廃棄物は基準年に対し3%増加し、生産量は2%減少で、原単位は悪化した。廃棄物削減アイテムを追加し、原単位を良好します。 (3) 環境教育：製造課員を中心に継続実施 (4) 法令順守：継続実施中

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	5,691 t-CO ₂	5,292 t-CO ₂	5,073 t-CO ₂	5,577 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	3,312 KL	3,145 KL	3,010 KL	3,267 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
サンケミカル株式会社 川崎工場	川崎市川崎区千鳥町13番2号	5,691	5,292	5,073	5,577

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度